買いすぎない・余らせない…

# 特集 みんなで考える食品ロス

6月は環境月間です。今回の特集では、「食品ロス」削減をテーマに環境について考えます。

## 食品ロスとは

食品ロスとは、賞味期限が切れてしまった食品や食べ残しなどの本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。

## 年間600万トンが食品ロス

日本全体の食品ロスの量は年間約600万トン。その内訳は、外食産業の食べ残しや食品製造業の規格外品などから発生する「事業系食品ロス」、家庭での食事の食べ残しや期限内に食べきれなかった食品の廃棄により発生する「家庭系食品ロス」に分けられます。

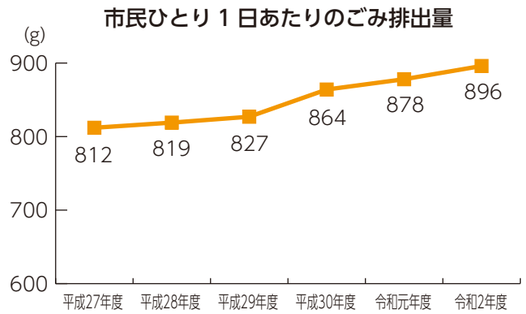
「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」(農林水産省)

## 勝山市のごみの現状

近年、勝山市民ひとり一日あたりのごみの排出量は増加傾向にあります。

燃やせるごみの内容を調査した結果、食品ロスを含む生ごみが多く含まれていることが分かりました。

これまでに、市では、調理くずの水切りを呼びかけたり、生ごみ処理機の購入に対し補助金を交付したり、生ごみを減らすための取り組みを実施してきました。




## 食品ロスを減らすために

現在、食品ロスを減らすため、市では、県が実施する「おいしいふくい食べきり運動」を、市民や飲食店などにPRする活動を行っています。

環境政策課
藤澤課長

また、市内の企業や団体、学校などでは、食品ロスを減らす活動が実践されており、この活動には多くの市民が関わっています。

**フードドライブとは**
家庭で余っている食品を持ち寄り、福祉団体、施設などを通じて必要としている方に寄附する活動

「もったいない」を「ありがとう」に

# フードドライブで社会貢献

県民せいきょう
「勝山きらめき」
施設長　寺島（てらしま）　哲也（てつや）さん

## 気軽に食品ロス削減と地域貢献を

2019年から県民せいきょうが取り組むフードドライブを昨年から勝山きらめき(元町2)でも年2回実施しています。

昨年は、お米やインスタント食品などを市民の方からご寄附いただき、勝山市社会福祉協議会へ提供したり、生活困窮者の方々への支援に繋がりました。

1点からでも寄附を受け付けています。食品ロスの削減と1人でも多くの方に支援が行き届くよう、ご協力をお願いします。

事業実施日はせいきょうのホームページなどでご確認ください。

**受付できる食品**

お米(お一人90kgまで・2019年産以降のお米)、乾麺(パスタ・そうめんなど)、缶詰、レトルト・インスタント食品、海苔・お茶漬け・ふりかけ、粉ミルク・離乳食、お菓子、調味料(醤油や食用油など)など

※１か月以上賞味期限が残り、常温保存可能なもの

## ちょっとした工夫で地球環境を守れます

「おなかがすいている時に買い物に行かない」「今日食べるものは賞味期限が短くても大丈夫」など、私たち消費者のちょっとした工夫で食品ロスがなくなり、地球環境を守ることができます。

霊長類学舎ジェーン・グドールさんは著書で「買い物は投票である」と述べています。

今いちど皆さんの行動を見直してみましょう。

## 家庭でできる取組

◆買い物前に冷蔵庫をチェック（携帯・スマホで撮影）
◆お買い物は必要な分だけ（ばら売り・量り売りの活用）
◆賞味期限を見て賢く買う
◆食べきれない野菜は、冷凍・小分け保存
◆食べきれる量を作る
◆残った料理はリメイク
◆外食時は、食べきれるものだけ注文　など

## \賢い消費者を目指して！/

勝山市消費者団体連絡協議会
(右) 会　長　山場（やまば）眞理子（まりこ）さん
(左) 副会長　前川（まえがわ）　幸江（さちえ）さん